

委員会だより

<7月8日(日) 12名出席>

【1】財務報告：01年6月度決算報告(内:01年度年間予算)

| | 00°収入累計 | 00°支出累計 | 収支差額 |
|------|--------------------------|--------------------------|------------------------|
| 一般会計 | 3,559,646 (6,073,380) | 2,235,655 (5,297,000) | 1,323,991 (776,380) |
| 建設会計 | 1,292,978 (1,876,674) | 393,000 (1,817,000) | 899,978 (59,674) |
| 愛の献金 | 544,873 (617,864) | 204,049 (320,000) | 340,824 (297,864) |
| 信徒会計 | 244,657 (744,520) | 30,000 (510,000) | 214,657 (234,520) |

▶特記事項:

- ◆一般会計: 特別献金 山崎神父様より39,000、信者の方より2,000頂く。通信費: 7月になってからNTTからの請求があるので、6月発生は無し。
- ◆建設会計: 支払利息: 5200K×3%=78,000
- ◆一粒会献金: 6月分収入31,275との報告有り。

【2】議事内容:

- ◆第五地区宣教委員会(5/20)報告(石井さん):
 - ◆宣教司教評議会の報告: @戸塚教会 別途正式報告配布
 - ◆終身助祭制度: 横浜教区は時期尚早との判断
 - ◆教区の資金枯渇している: 一億円位ショート?
 - ◆藤沢教会から、要理講座案内(リーダー養成コース)の話あり:
 - ◆受講料は全コース30回で7万円。受講後の資格等未定。
- ◆泉区クリスマス: 泉区のキリスト教会合同のクリスマス降誕祭(キャロリング): 新教と交流する良いチャンス
 - ◆いづみコール永見富久好氏(日本キリスト教団藤沢教会会員、泉区在住)の呼び掛け。既に山崎神父様が全面協力を表明。
 - ◆7団体参加: 中和田は練習の場、オルガンの提供等協力
 - ◆12月22日の4時から、最初は公会堂(予約済)
 - ◆礼拝もちまわりだが、中和田はパスする。
 - ◆連合聖歌隊(男子が不足)の練習8月から2回予定(場所提供)
 - ◆中和田は他教会の拠出額を勘案し3万円拠出
- ◆一粒会の活動:
 - ◆各地区の招命に関する活動に補助費。9月15日大会開催。
- ◆教会維持費 - 献金袋に関し横浜教区の通達あり(6/26):
 - ◆中和田教会は問題ないが、来年度は更に見直し。
- ◆要理夏季学校:
 - ◆初聖体該当者が5人。1人は順調に勉強が進み8/5に初聖体予定。今回泊まりは無し。初聖体の勉強をやる場合は1日程度。山崎神父様からは「お祈りが出来ればよい」と。
 - ◆今後神父様、井上さん、島倉さん、ご両親で話を頂く
- ◆バザー運営:
 - ◆委員も決ったので、運営指針を決めてバザー委員会をスタートする(7/14)。委員は壮年会: 七浦、竹内、 婦人会: 小山(恭)、岩崎、 委員会: 花坂、甲斐、福島
 - ◆テーマは昨年と同じ、規模も概ね昨年並みとする。
 - ◆バザー収益50万円を予算化済。(バザー券25万円程必要)。
- ◆卓球大会:
 - ◆委員は宮崎さん、並びに下村さんご夫妻にお願いする。8/26に開催する。 場所とり7/26
- ◆敬老会:
 - ◆9月9日に敬老会を開催。対象年齢の引上げについて議論したが結論出ず。例年通り70歳以上とする。
 - ◆位田さん、阿部さんにお祝い品選を一任する。
- ◆その他:
 - ◆ミサの先唱の枠を広げたい。
 - ◆裏の倉庫/棚: 床がシロアリでひどい。別途調査

壮年会だより

<7月15日(日) 10名出席>

- ◆委員会報告(7月度)
- ◆議案
 - ◆8月の聖書朗読: 8/5 竹内さん 8/26 清水さん
 - ◆9月の聖書朗読: 9/2 東原さん 9/23 橋さん
 - ◆バザー委員会: 規模方法は昨年並。壮年会収益目標5万円
- ◆自由議題
 - ◆バザーについて: 今年も、焼きそば、焼き鳥、焼きイカ、飲み物。担当者及び当日の手伝い者を早めに決めておく
 - ◆8月中神父様のお説教は、お休みについて:
 - ◆信者が、神父様が変わってお話し(教話)する事が出来ないだろうか? お説教を短くする方法がないだろうか?
 - ◆お説教は、祈りであるとの教えもある。
 - ◆先唱者研修について: 話し合いが大変活発に行われ、時間がなくなったので、先唱者マニュアルを配布、研修日時は、後日決定する。
 - ◆朗読について: 朗読者は、内容を理解して、ゆっくり、はっきり、強弱をつけて朗読するようお願いしたい。

婦人会だより

<7月15日(日) 32名出席>

- ◆委員会報告(岩崎)
- ◆「区民クリスマス会」報告(阿部)
 - ◆8月末頃からクリスマスの曲を中心とした歌の練習が始まります。毎週金曜日の午後7時からの予定です。
- ◆「一粒会」報告(七浦)
 - ◆今年の一粒子大会は、9月15日、午前9時30分より富士吉田市・富士聖ヨハネ学園で行なわれます。
- ◆「婦人同志会」報告(阿部): 過日の遠足は有意義にかつ楽しく終了しました。ありがとうございました。
- ◆バザー関連
 - ①バザー券の景品用の品物を8月末日迄にご提供ください
 - ②不用衣類のミニバザー(6/17, 24)の売上金は15,730円でした。バザーの収益金として処理することになりました。
 - ③食堂の内容と価格、食数が決まりました。
 - カレーライス 150食 300円 おでん 100食 250円
 - おしるこ 150食 200円 クッキー紅茶 100食 100円
 労力が大変なので簡単にとの声もありましたが、若い方々の協力を期待し、内容は昨年準じたものとなりました。
- ◆婦人会関連
 - ①バザーの仕事日: 8月はお休み。9月は第1, 第3木曜日
 - ②8月26日の卓球大会には、選手、応援、慰労会準備の3分野での積極参加をお願いします。
 - ③「山手地区聖歌の集い」代表が石井様から花坂様に替りました。石井様長い間ご苦勞様でした。
 - ④ご主人様で今年70歳になれる方は、位田様までお申し出ください。
 - ⑤仲村様から病氣お見舞のお返し(お菓子)をいただきました。お見舞はご病氣が一日も早く快癒され、お元気で再び会に来て頂けるようにと願うものですから、お見舞へのお返しの気遣いはしないよう申し合わせました。

次回例会は9月16日(日)、次回当番はA地区です。

お知らせ

初聖体 8月5日(日)
 マキシミアノコルベ 石井大河くん
 バジリオ 石井拓真くん
 ヨハネ 下迫瑠平くん

広報 ながわだ

第272号

2001年8月号

8, 9月の予定

| | |
|---------|--------------|
| 卓球大会 | 8月 26日 |
| 委員会 | 9月 2日 |
| 壮年会、婦人会 | 9月 16日 |
| サロン | 9月 9,23日 |
| レジオ | 9月 14,21,28日 |



中和田カトリック教会
 広報委員会発行
 泉区中田北1丁目9-1
 Tel. (045) 803-6141
 平成13年8月11日



思い出せたこと ④-1

山崎 正俊



キリストの教えのことを知ったのは、「一粒の麦」という映画を、町の小学校の講堂で見たあとに、賀川豊彦先生のパンフレットを読み、続いて「神の国新聞」を約一年間にわたって読ませていただいたことによるのです。「かぎた」さんの「賀川豊彦伝」を夜を徹して読みとおせたことも、鉄道学校に通っている頃に、近くのキリスト教会での伝道説教を直接に聞いて、あの「神の国新聞」のお礼としての献金をさせていただき、麴町教会で公教要理の勉強はしていたのですが、賀川先生は、私の恩人として記憶に残る人になられたのです。荻原神父様から、ラゲ神父様の新約聖書を与えられ、ローマ教会が正統のものだと思えたこともあって、レミジオマトン神父様のすすめに動かされた結果、いまでは、カトリック教会の神父として生きることになったのです。

賀川先生は、私が横須賀の三笠教会に移った頃にこの世を去られ、その第一回目の全集が出されはじめたのですが、「水平社」の運動との関係で、ひどい悪口で、先生の立場が部落開放運動に対立するように、私には見えはじめました。はじめは協力的であったようなのに、私の胸をツキサスようになられ、先生を弁護する人があるのは、かなりのユキスギがあると感じられたからです。

それぞれに、もったもだと思われるのですが、先生にもそれだけの反感を感じられるような過去の生い立ちがあったのでしょうが、あの年齢では無理もないことでしょう。私が80歳を過ぎてやっと気がつくような、その父母に対する反感があったことを思えば、胸のツカエを取り除くことはむづかしく、何と言ったらよいかわからない。(つづく)

(2001. 7. 25)

ミサ当番表 (2001年8, 9, 10月)

| 月/日 | 主日 | 朗読、奉納 | オルガン | 月/日 | 主日 | 朗読、奉納 | オルガン |
|------|----------|--------|------|-------|----------|--------|------|
| 8/5 | 年間第十八主日 | 壮年会 | 岩 淵 | 9/23 | 年間第二十五主日 | 青年会 | 森 田 |
| 8/12 | 年間第十九主日 | 青年会 | 森 田 | 9/30 | 年間第二十六主日 | 婦人会A地区 | 保 科 |
| 8/19 | 年間第二十主日 | 婦人会役員 | 保 科 | 10/7 | 年間第二十七主日 | 壮年会 | 岩 淵 |
| 8/26 | 年間第二十一主日 | 壮年会 | 岩 淵 | 10/14 | 年間第二十八主日 | 青年会 | 森 田 |
| 9/2 | 年間第二十二主日 | 青年会 | 森 田 | 10/21 | 年間第二十九主日 | 婦人会B地区 | 保 科 |
| 9/9 | 年間第二十三主日 | 婦人会A地区 | 保 科 | 10/28 | 年間第三十主日 | 壮年会 | 岩 淵 |
| 9/16 | 年間第二十四主日 | 壮年会 | 岩 淵 | | | | |

当番の方は10分前には集合して下さい。ご都合の悪い方は典礼委員(荻原氏: TEL 802-6258)迄お申し出下さい。

あしあと (Footprints)

石井 三雄

この詩との出会いは、家内が参加しているコーラスの定期演奏会だった。

入場するときに配られていたプログラムの中でそれは紹介されていた。

この詩との最初の出会いは今から8年前、長男が結婚したときにマリア会のK寅神父から贈られたもので、額に入っていて彼らには大変意義深い贈りものだったと思う。

K寅神父との出会いはおよそ13年前、四男が中学生になった時に我々ともどもマリア会にお世話になったが、それ以来のご指導いただいている経緯がある。

プログラムの紹介記事には「全世界のクリスチャンの間であまりにも有名なMパワーズの詩云々」と記されていた。

私は洗礼を授かってから（クリスチャンとなって？）既に40余年が過ぎている。が、この詩との出会いはそのとき以来となる。紹介記事の冒頭の文言が妙に引っかかったが、改めて読むと、当時とは異質の感動が伝わってくる。それはとても身近なものとして自身の深層で呼応していた。経年による自身の変化なのか。とにかくその詩に引き込まれていった。



ある夜、わたしは夢を見た。わたしは、主と共に渚を歩いていた。
暗い夜空に、これまでの私の人生が映し出された。どの光景にも、砂の上に二人のあしあとが残されていた。
一つはわたしのあしあと、もう一つは主のあしあとであった。

これまでの人生の最後の光景が映し出されたとき、わたしは、砂の上のあしあとに目を留めた。
そこには一つのアシあととしかなかった。わたしの人生で一番辛く、悲しい時だった。
このことがいつもわたしの心を乱していたので、わたしはその悩みについて主にお尋ねした。
「主よわたしがあなたに従うと決心したとき、あなたは、すべての道において、わたしと共に歩み、わたしと語り合ってお下さると約束されました。それなのに、わたしの人生の一番辛い時、一人のアシあととしかなかったのです。一番あなたを必要とした時に、あなたが、なぜ、わたしを捨てられたのか、わたしには判りません。」

主はささやかれた。「わたしの大切な子よ、わたしはあなたを愛している。あなたを決して捨てたりはしない。ましてや、苦しみや、試みのときに、あしあとが一つだったとき、わたしはあなたを背負って歩いていた。」

(原詩： Margaret Fishback Powers 訳詩： 松代 恵美)

先日、レーナマリアのコンサートに出かけた。生まれながら重度の障害を持つ人は数多くいる。彼女もサリドマイド過によってこの世に生を受けた一人だ。'68年にスウェーデンで生まれた彼女は両手がなく左足も右足の半分ほどの長さしかない。しかしステージの中央で歌う彼女の、こぼれるほどの微笑みと、透きとおる高音は今でも脳裏に焼き付いている。

苦しみ、悲しみの要因には、先天的なもの、後天的なものがあると思う。レーナの微笑みは作られたものではなく、心からのものと映る。控えめで、何よりも自然なのだ。もしも生まれつきなものだとしても、成長する段階で生じるハンディキャップや偏見、差別でそれは雨散霧消してもおかしくないと思うのは、下衆のかんぐりか、信仰浅き者の愚かなる考えなのか。

やはり信仰によるものなのだろうか。「神様はきっと何か特別なご計画があって、私をこのように作られたのだと思います。神様こそ私に生きる力と喜びを与えてくださることを、どこに行っても証したいです。」と彼女が最近リリースしたCDのプロフィールの中で語っている。やはり自分の境遇を受け入れる強く深い信仰がそこに感じられる。

苦しみのとき(絶望的な孤独)にあつて、もしもあしあとが一つになったと感じたとき、それが主と共にいると言うことが悟れますように

濱尾大司教の近況【2】

(文：横河 和夫 撮影：齋藤 康一)

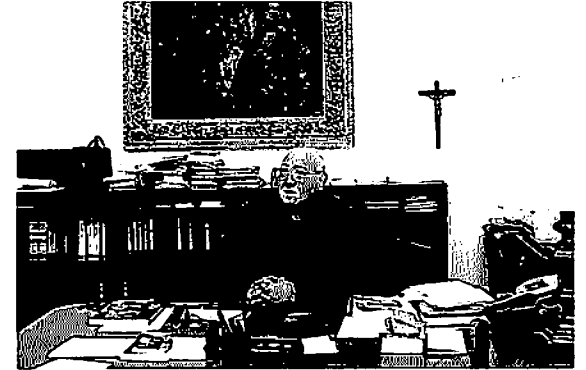
2. 民族、宗教、敵味方の別なく、手を差し伸べる

昨年一月には、ベルギーのアントワープで大西洋、地中海、黒海沿岸などで船員の世話をする団体を集めた国際会議を開催した。

「最近の船は停泊期間が短く、船員は上陸するチャンスが少ない。そのためにストレスがたまり犯罪や覚醒剤使用が増えています。アルバニアからの難民が南イタリア沿岸に着くと、マフィアが婦女子を北イタリアに連れて行くケースもあります。子供の臓器移植、人身売買も横行しています。そういった問題に地域のカトリック教会は、どう対処しているか、何が必要かといった問題を話し合い、情報を交換し、研修会を開いたりして、無関心な教会には目を覚まさせるのが、僕の評議会の役割なんです」

同じ昨年一月には、コソボからの難民流入で混乱状態にあったアルバニアを訪れた。

「アルバニアの教会の人たちは『自分たちはコソボよりも貧しい。正直に言って助ける余裕もない。でも、子供が泣いたり苦しんでいる母



濱尾大司教が議長を務める移住 移動者司牧評議会は、1970年に設立された新しい組織。濱尾さんは午前8時には執務室に入る。

親の姿を見ると、助けざるを得ないんです』と訴えていたのは印象的でした」

仕事の内容から、同じ日本人同士ということもあり、今後はジュネーブに駐在する国連の難民高等弁務官緒方貞子さんと連絡する機会が多くなるだろう。

「緒方さんは『国連は国際法による限界があり、攻撃する側の負傷者は助けてはならないという規則があります。コソボ問題でも、NATOは国連に入っているのに、NATOの攻撃を非難できない、国連は世界を救えないんです』と、言っておられるそうです。その点、教会は大きな仕事はできないけれど、ニュートラルで、敵味方、宗教、民族に関係なく、困っている人がいれば手を貸していきます。しかし雨漏りしている所にバケツを持っていく感じで、内政の貧困、失業問題、富んだ国と貧しい国の格差は正など、貧富の差を生む社会構造、



評議会のオフィスでは毎朝、午前10時30分からコーヒープレーク。12月23日には、ささやかなクリスマスパーティーが行われた。

つまり屋根を直してくれないと困る。それをするのが政治、経済の力だと思います」

3. 戦後の混乱期に自らの道を見いだす

父親の濱尾四郎氏は、検事から弁護士、そして昭和の初めには江戸川乱歩、甲賀三郎と並んで探偵小説作家として知られた。『殺人鬼』『悪魔の弟子』などは創元推理文庫の『浜尾四郎集』として今も書店に並ぶ。

「父は、僕が五歳の時に風呂から出て脳溢血で倒れ、40歳の若さで亡くなりました。それで母は朝香宮千賀子妃の御用係になって残された四人の子供を育てました。長男の誠は、海軍大尉で連合艦隊の旗艦となった『大淀』の高角砲の指揮官でした。広島島の呉港に停泊中、艦載機の攻撃にあつて戦死しました。当時23歳、終戦直前の3月19日でした」

二男の実氏(75)は元東宮侍従。長女の照子さん(73)は、今も東京で健在である。

「末っ子の僕は戦中派の右翼で、神風を信じていました。でも神風は吹かなかった。敗戦でがっくりきましたが、四谷の雙葉学園を出てカトリックになった母の勧めで教会に通い、終戦翌年の12月に世田谷教会で故今田神父の人格に引きつけられて受洗しました。」

(以下次号に続く)



98年のクリスマスイブ、サンピエトロ寺院で行なわれたミサに、大司教の正装で参列した濱尾さん。